

SCK NEWS

LivedoMedical

株式会社 リブドゥコーポレーション

＜メディカル営業本部＞

〒164-0011

東京都中野区中央1-38-1 住友中野坂上ビル16F

TEL: 03-5338-5155 / URL: <https://www.livedo.jp>

発行日: 2019年(令和元年)12月15日

発行: メディカル営業本部

認定看護師
インタビューリレー
《第16回》

不安を感じる心の扉をノックして

一看護師を目ざしたきっかけは何ですか？

将来は人の役に立てる仕事に就きたいと考えており、母から資格のある仕事に就職してほしいとの希望もあり、看護師を志し大学へ進学しました。おっとりとした性格と周りから言われていましたので、手術室には向いていないと思っていました。しかし、当時の採用面接担当者が手術室勤務の方だったこともあり、手術看護への魅力を教えてもらい、背中を押され手術室勤務としてスタートしました。配属当初は仕事内容が辛く辞めたい気持ちがありましたが、先輩から3年は続けるようにと

アドバイスを頂き、仕事を続けていくうちにしだいに楽しくなっていました。

一今、力を入れて取り組んでいることは何ですか？

手術室へ泣きながら入っていく子どもの姿に心苦しさを覚え、本来持っている力を引き出したいと考え、小児プレパレーションの取組みとして「手術室探検ツアー」を企画しました。ツアーでは手術前日にスタンプラリー形式で手術室を探検してもらいます。手術室まで続く動物の足跡に興味を示す子どもも多く、ツアー導入後は手術室への恐怖心がなくなったのか、泣きながら

入っていく子どもは少なくなりました。手術室に対する不安な気持ちに寄り添い、安心してもらえたのかなと思っています。

一若手看護師に向けてメッセージをお願いします。

私もそうだったのですが、若手看護師にとって手術室の仕事は覚えることが膨大で、辛いと思いながら仕事をしている人が多いのではないのかなと思います。しかし、この時期を乗り越えれば自分の可能性を広げることにもなりますし、急性期の最先端を担う手術看護を習得できればどの分野に行っ



藤原 和世 氏

神戸市立西神戸医療センター
看護部主査(主任看護師)
手術看護認定看護師7期生

ても活躍できると思います。今までに得た経験を活かして患者のためにできることを積極的にチャレンジしていくと、仕事を楽しめるときがきっと来ると思います。その醍醐味を味わう前に辞めるのはちょっともったいないですね。笑
(聞き手: 谷、山口)

第33回日本手術看護学会年次大会 in 岡山

周術期における手術室看護師の役割とやりがい — 地域へ繋げる周術期看護 —

2019年10月11日、12日の2日間、第33回日本手術看護学会年次大会が中国地区で14年ぶりに開催されました。山本千恵 大会長(日本手術看護学会中国地区会長)より、術後の患者が地域に戻って安心して生活をしていくためには周到な準備が必要であり、手術室看護師の役割が重要性を増しています。術前から患者に関わっていくことが私たちのやりが

いに繋がっていくとの熱いメッセージを来場者に向けて述べられていました。

また、石橋まゆみ理事長(日本手術看護学会理事長)は、学会は手術室看護師の専門性の追求と手術室看護師の役割、看護のあるべき姿、さらには看護師のやりがいなどの道しるべになるよう活動してまいりますとご自身の抱負を述べられました。(中西)



第33回日本手術看護学会・年次大会 医療現場の総合ソリューションサービス MORALIS [モラリス] を出展

第33回日本手術看護学会・年次大会の併設企業展示にて、株式会社リブドゥコーポレーション(以下リブドゥと記載)は「医療現場の総合ソリューションサービス MORALIS [モラリス]」を出展しました。モラリスは医療現場のお困りごとに対して、革新的な手法で手助けし、導くシステムです。医療現場と経営の両目線から改善の進め方、取り組み方を一緒に考え、お客様にとって最適なソリューションサービスを提供し、医療現場の効果的な改善活動を支援することをコンセプトとしています。『継続的に健全な病院経営』と『働きがいを感じる職場づくり』を行うための最良なパートナーでありたいという思いが込められています。

展示ブースでは、モラリスに



含まれる様々なソリューションサービスについて紹介しました。その中でも昨年に引き続きの展示となったピッキングのサポート NAVISCOPE (ナビスコープ) は特に来場者の関心を引いており、ブースに設置されたナビスコープ体験エリア

で医療材料のピッキングを経験した方からは、「自院でも導入してみたい」という声があがりました。本学会を皮切りに、リブドゥは今後もさまざまなソリューションサービスを発信し、医療現場の問題に寄り添っていきます。(山口)

TOPIC

未来の教育体系が
変わる!?

VRゴーグル活用方法

皆さん、ご存じのとおりVR(バーチャル・リアリティ)は様々な疑似体験ができるものとして、あらゆる分野に普及しています。例えば、USJ、ハウステンボスなどのテーマパークでは最新のバーチャル体験ができることで来場者を集めており、家庭でもVRゴーグルを装着し、ライブ会場の映像を視聴することで臨場感のある体験ができます。

また、医療分野でもVRは活用されており、第116回東北整形災害外科学会にて手術室看護師向けのセミナーに用いられました。ベテラン看護師の目線に立ちながら説明を受け、器械出しを体験できるもので、普段の教育では学べない手術室の臨場感や器械出しの動きやタイミングをリアルに体験でき、理解度が深まったとのことです。

外回り、器械出しの新人教育体系へVR技術が導入される日が近いのかもしれませんが。(中西)

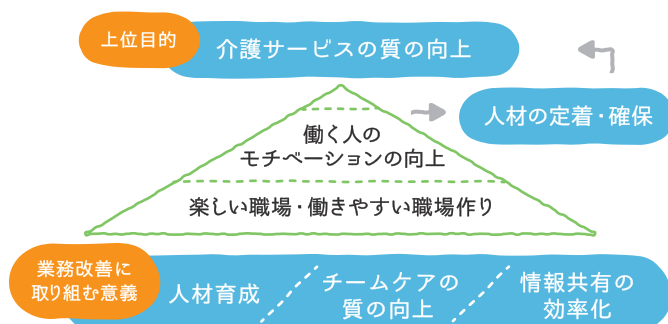
「第116回東北整形災害外科学会」セミナー内容一部抜粋

CARE & CURE

介護サービス初の 生産性向上ガイドライン

2019年3月に厚生労働省より「介護サービス事業(施設サービス分)における生産性向上に資するガイドライン」が公開されました。介護サービスにおける業務改善の上位目的は介護サービスの質の向上です。ガイドラインでは、介護事業者が業務改善の取り組みを行うにあたっての手順がステップごとに紹介されています。リブドゥは、排泄介護のノウハウを活かして、職場環境の改善と質の高い介護の実現をサポートいたします。(嶺川)

「介護サービス(施設サービス分)における 生産性向上のとらえ方」



※介護サービス事業(施設サービス分)における生産性向上ガイドライン[概要]
(厚生労働省)より

詳細は

生産性向上ガイドライン

検索